個人投資家向けIRセミナー
会社説明資料

株式会社翻訳センター［証券コード2483］
2026年10月24日

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

代表取締役社長の二宮 俊一郎です。
本日は当社の会社説明会にご参加いただき、ありがとうございます。

Table of Contents

- 会社概要
- 成長戦略
- 株主還元
- Appendix

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

本日は、当社の事業内容と成長戦略を中心にご説明します。

Section 1

- 会社概要
- 成長戦略
- 株主還元
- Appendix

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

まず初めに、会社概要についてご説明します。

会社概要

企業理念

産業技術翻訳を通して、国内・外資企業の国際活動をサポートし、
国際的な経済・文化交流に貢献する企業を目指す

経営ビジョン

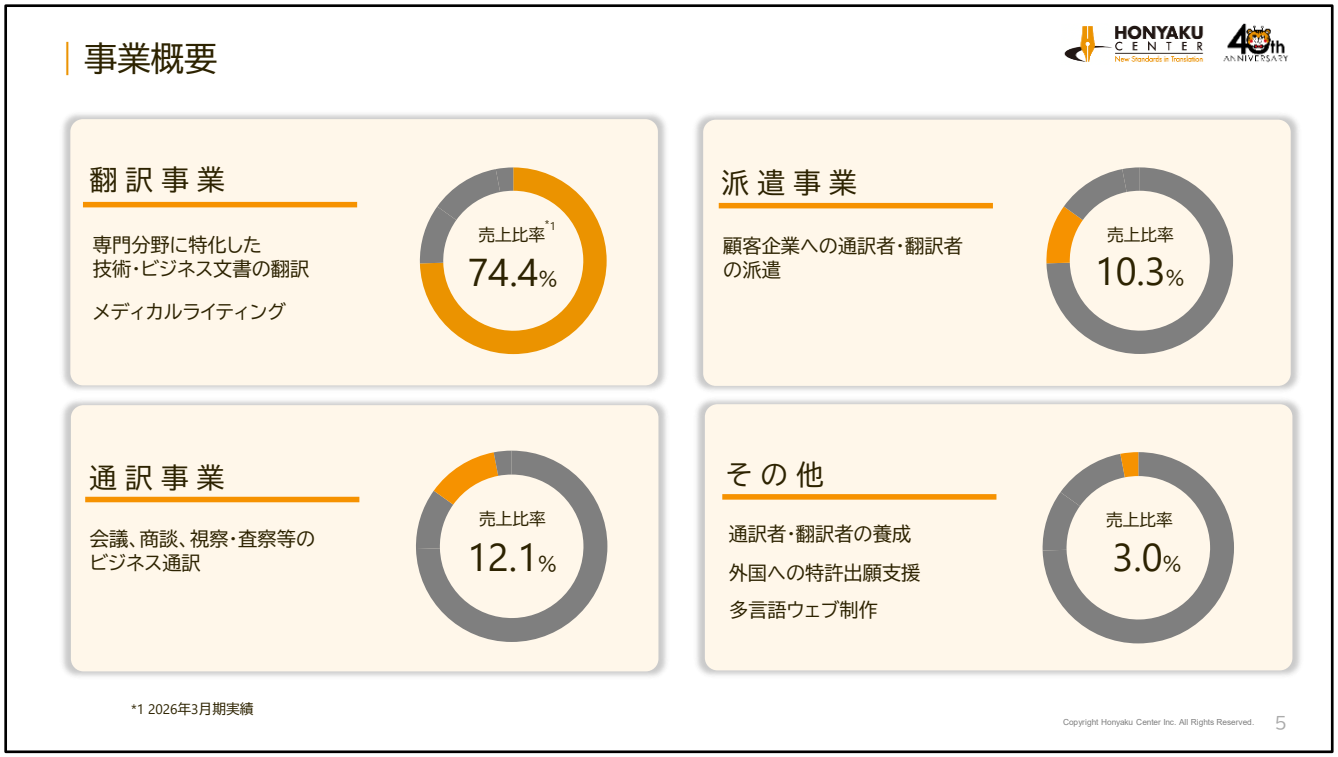
すべての企業を世界につなぐ 言葉のコンシェルジュ

人と人とのコミュニケーションになくてはならないのが「言葉」です。国や言語が違っても「言葉」は世界の人々が理解し合うための重要なツールです。翻訳センターは、「言葉」でお客様を世界につなぎます。

会社名	株式会社 翻訳センター
本社所在地	大阪本社:大阪府大阪市中央区平野町2丁目5番8号 東京本社:東京都港区赤坂1丁目12番地32号
代表者	二宮 俊一郎
設立	1986年4月
資本金	5億8,844万円(2026年3月末現在)
従業員数	540人(2026年3月末現在) *連結
事業所	大阪、東京、名古屋
関係会社	株式会社アイ・エス・エス 株式会社メディア総合研究所 株式会社パナシア 株式会社福山産業翻訳センター シトラスジャパン株式会社 ランゲージワン株式会社(持分法適用会社)
事業内容	翻訳事業、通訳事業、派遣事業、 通訳者・翻訳者養成、外国特許出願支援、 メディカルライティング、多言語ウェブ制作、 多言語コールセンター

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

当社は、経営ビジョンとして、「すべての企業を世界につなぐ言葉のコンシェルジュ」を掲げ、事業を展開しています。
一言で申し上げると、外国語コミュニケーションを促進することが、当社の使命です。

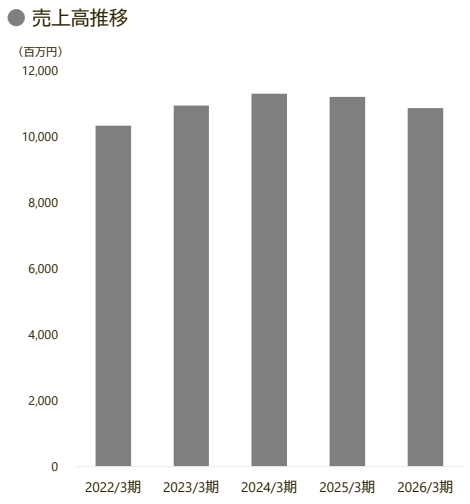


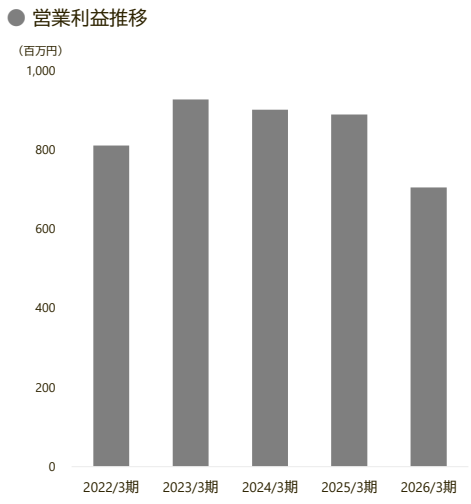
当社のコア事業は翻訳事業で、売上高の74.4%を占めています。このほか、通訳事業が12.1%、派遣事業が10.3%を占めています。

派遣事業は一般的な事務派遣ではなく、通訳者や翻訳者など外国語関連人材の派遣が中心です。また、通訳者・翻訳者の養成スクール運営、外国特許出願支援、多言語ウェブ制作なども手掛けています。

業績推移

100億円規模の事業基盤を維持しながら、収益力の強化に取り組んでいる





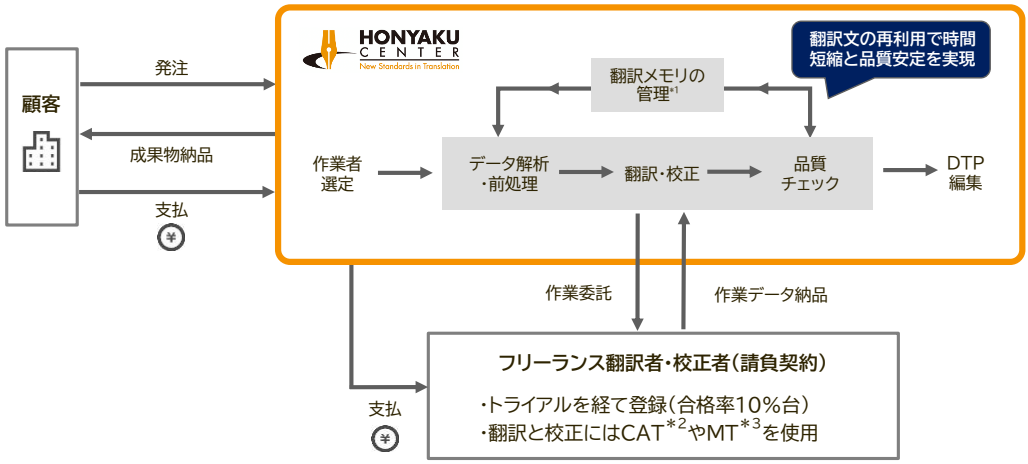
Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

業績推移についてご説明します。

直近2年間は売上高、営業利益ともに厳しい状況が続いていますが、100億円規模の事業基盤を維持しています。

一般的な事業会社では売上高100億円規模は決して大きくありませんが、翻訳業界は小規模事業者が非常に多い業界です。年商5億円程度でも中堅企業と位置付けられることが多く、そのなかで当社は業界でも有数の規模を有しています。

ビジネスモデル



*1 翻訳メモリ:(Translation Memory)とは過去に翻訳した文章を原文と訳文のペアでデータベース化したものであり、略して「TM」とも言う。
*2 CAT:翻訳支援ツール(Computer-Assisted Translation | 翻訳者や校正者の作業を支援し、作業効率向上に導くソフトウエア)の略語
*3 MT:機械翻訳(machine translation | 人を介さず機械が行なう翻訳)の略語

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

翻訳事業のビジネスモデルについてご説明します。

当社では、お客様から原稿をお預かりし、その内容に適した翻訳者を選定して、翻訳業務を進めています。実際の翻訳作業は、主に外部のフリーランス翻訳者に委託しています。その理由は、当社が取り扱う文書の多くが高度な専門性を必要とするためです。

例えば特許翻訳では、バイオ、製薬、遺伝子、半導体、電気、化学、機械など、幅広い技術領域への対応が求められます。企業が海外市場で事業展開する際には、製品の輸出に先立って各国で特許を取得し、知的財産を保護する必要があります。こうした専門領域を一人の翻訳者がすべてカバーすることは難しく、それぞれの分野に精通した専門家の協力が不可欠です。

特許は一例ですが、ほかにも製薬や自動車関連等、さまざまな技術に対応すべく、非常に多くの翻訳者の方々にご協力いただいています。

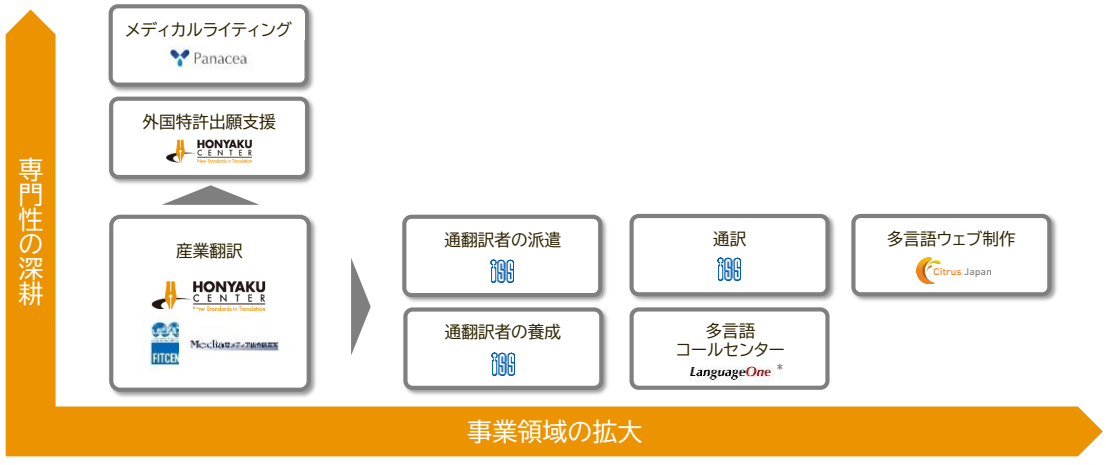
社内では、案件の内容、専門分野、納期などを踏まえ、最適な翻訳者を選定しています。このマッチング業務には専門知識が必要であり、当社の競争優位性の一つとなっています。

また、翻訳者の方々に翻訳作業を行うためのプラットフォームも提供しています。現在は機械翻訳を活用した翻訳が主流となっており、高度な翻訳環境やデータ基盤を個人で整備することは容易ではありません。当社は豊富な翻訳データとシステム環境を活用し、翻訳者の方々の生産性向上を支援しています。

さらに、一番重要な役割がQA(品質保証)機能です。翻訳者から納品された翻訳文をそのままお客様へお渡しするのではなく、社内で最終的な品質確認と品質保証を改めて行っています。要するに、原文と訳文の意味内容に相違がないことを社内で確認したうえで、お客様に納品しております。

外国語サービスの総合サプライヤー

産業翻訳を軸に成長しながら、通訳・派遣やメディカルライティング、出願支援等の周辺事業にも進出。外国語サービスの総合サプライヤーとして企業の国際活動を幅広く支援



＊持分法適用会社

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

続きまして、翻訳事業を起点とした事業領域の拡大についてご説明します。

縦軸は、翻訳事業を中心とした周辺サービスの拡充を示しています。
その一例がメディカルライティングです。医薬分野では、新薬承認申請に関する膨大な資料の翻訳を手掛けていますが、メディカルライティングでは翻訳対象となる原稿そのものを作成します。高度な専門知識が求められる業務ですが、翻訳事業で培った知見を活用できる領域であり、同時に当社の専門性の高さをお客様に示すブランディング効果も期待しています。
外国特許出願支援も、メディカルライティングと同様の位置づけです。

横軸は事業領域の拡大を示しています。
こちらは主にM&Aを活用して拡大してきました。アイ・エス・エスは翻訳センターよりも長い歴史を持つ業界有数の老舗企業です。同社をグループ化した目的は、通訳事業および派遣事業の強化にありました。翻訳と通訳は関連するサービスでありながら必要とされるスキルが異なり、両方に対応できる人材は決して多くありません。そのため、通訳事業への本格参入にあたっては、M&Aが最適な選択肢でした。

このほか、電話通訳を中心とした多言語コールセンター事業では他社様と連携して事業を展開しています。また、多言語ウェブ制作についても、直近でグループに加わったシトラスジャパンを通じてサービスを提供しています。

当社グループの特長



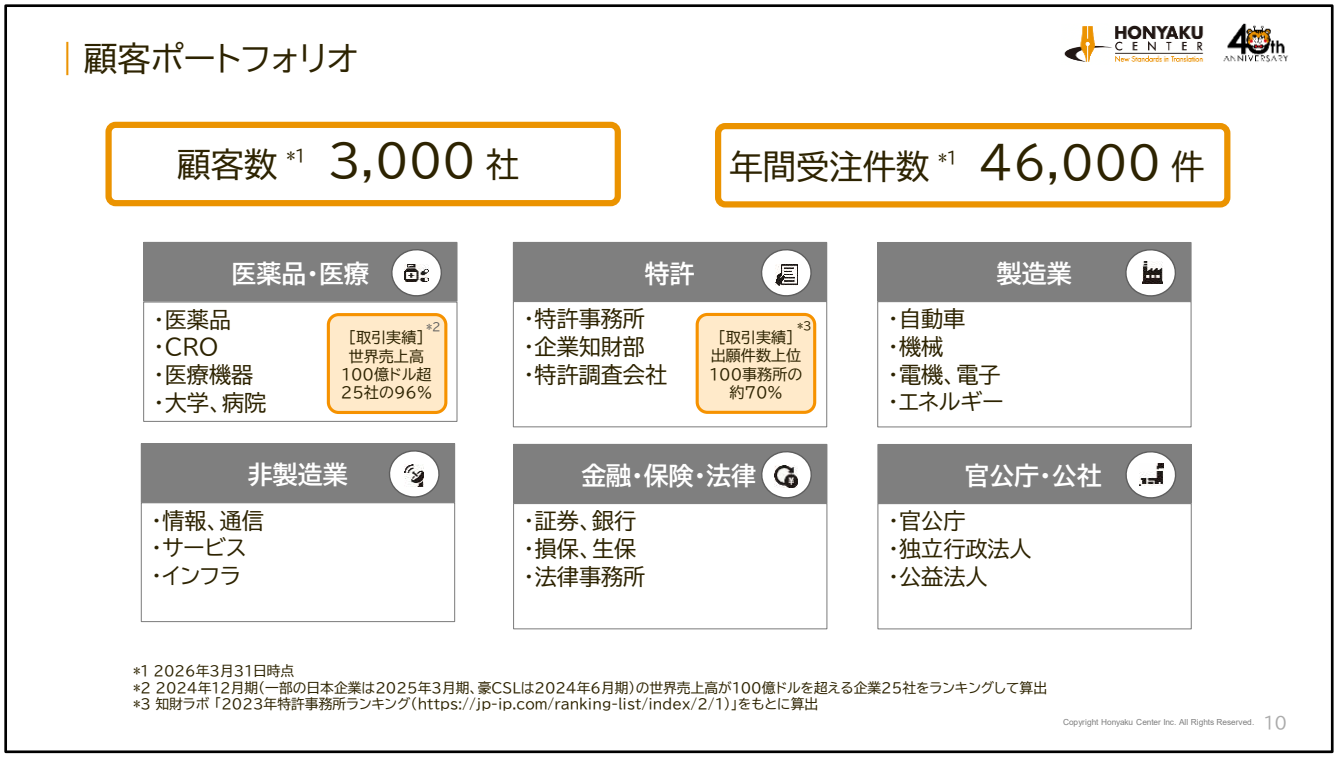
顧客ポートフォリオ



テクノロジーの活用

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

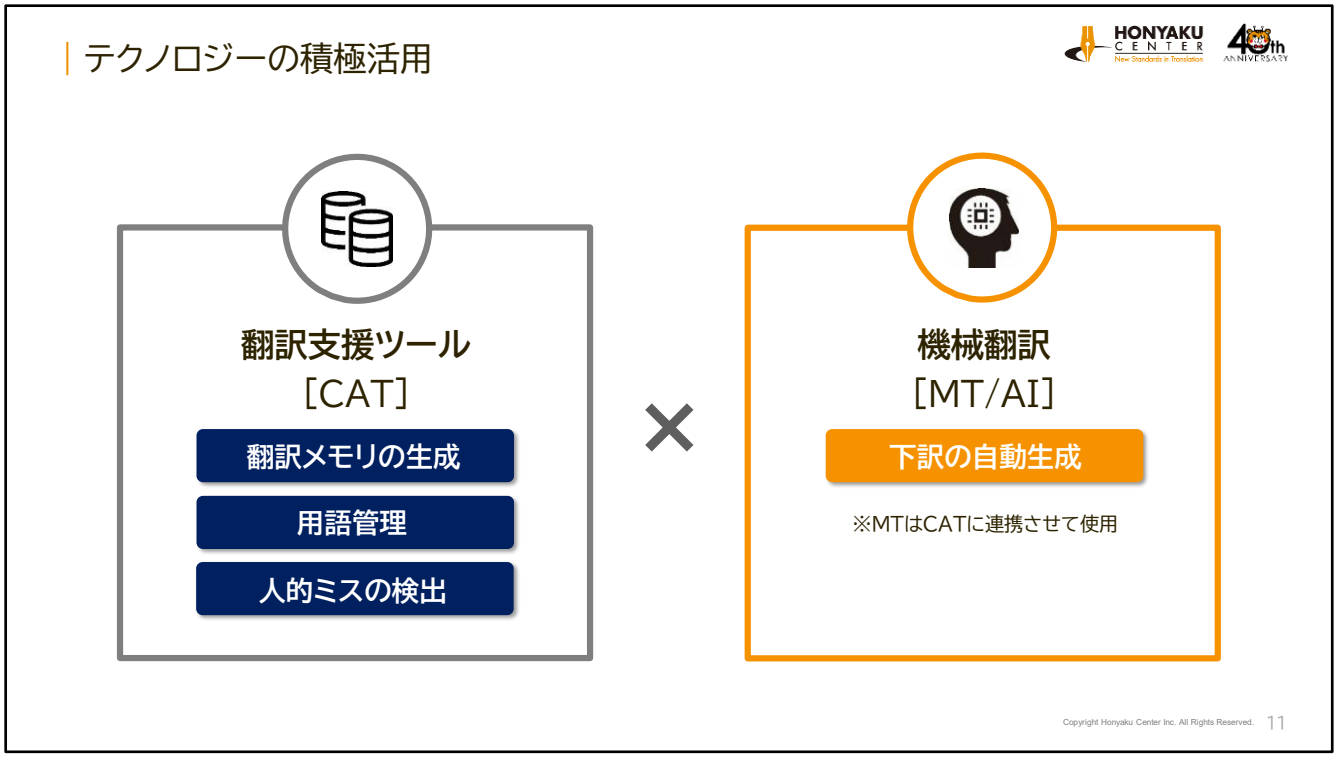
次に、当社グループの特長である、顧客ポートフォリオとテクノロジーの活用についてご説明します。



顧客ポートフォリオについてご説明します。

当社の特長の一つは顧客数の多さです。年間で取引のある顧客企業数は3,000社を超えています。その結果、年間の受注件数は約4万6,000件に達しており、多数の案件を継続的に受注しています。

新薬申請資料のような大型案件だけでなく、小規模な案件も数多く手掛けていることが当社の特長です。



続いて、テクノロジーの活用についてご説明します。

まず、オレンジ色の部分にある機械翻訳(MT)についてお話しします。当社では大きく二つの技術を活用しています。一つは青色で示しているCAT(翻訳支援ツール)で、もう一つが機械翻訳(MT)です。最近ではAI翻訳という言葉も一般的になっていますが、基本的には同じものとお考えいただいて構いません。

現在、機械翻訳は当社の翻訳業務に欠かせないツールになっています。翻訳者がゼロからすべてを翻訳するというケースはほとんどなく、機械翻訳を下訳として利用し、その内容を人が確認・修正しながら最終的な翻訳を完成させています。当社は、機械翻訳という言葉が今ほど一般的になる以前、恐らく20年ほど前から、この技術に注目し、様々なベンダーと共同で調査や研究を行い、その性能を継続的に評価してきました。その中で、Googleがニューラルネットワーク型の機械翻訳を提供し始めた頃に、初めて実用レベルに到達したと判断しました。

それ以降、本格的に機械翻訳の活用へ舵を切っています。そういった意味では、AIも含めた機械翻訳技術は当社にとって非常に馴染みのある技術です。私自身も、機械翻訳について投資家の皆様へ説明するようになってから10年近くになります。

その中で当社の強みの一つが、自社専用のモデルを保有していることです。これは世界中で当社の登録翻訳者だけが利用できる専用モデルであり、当社独自の翻訳資産を活用して構築しています。なぜそれが可能なのかというと、一つは事業規模です。売上規模が比較的小さい翻訳会社の場合、自社専用モデルの開発や運用に必要な投資負担が大きくなります。もう一つはデータ量です。AIはデータがなければ十分な性能を発揮できません。当社には長年の事業活動を通じて蓄積された大量の翻訳データがあり、それが社内で循環しています。事業規模の大きさがデータ量につながり、その豊富なデータが独自モデルの競争力の源泉になっています。今後も当社の重要な強みとして、磨いていきたいと考えています。

テクノロジーの積極活用



テクノロジーの積極活用により、作業時間を大幅に短縮

＊機械翻訳(MT)で生成された訳文を、プロの翻訳者が修正・編集(Post-Editing)して品質を高める翻訳手法

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

次に、CAT(翻訳支援ツール)についてご説明します。

こちらは画面イメージですが、実際の翻訳作業はこうしたツール上で行われています。機械翻訳というと、ファイルをアップロードするだけで翻訳文が出力されるといったイメージを持たれると思いますが、実際の翻訳現場では、一文一文、丁寧に確認しながら翻訳する専用ツールを使用しています。

その理由は、AIが非常に自然な文章を生成できる一方で、誤訳がなくなったわけではないからです。むしろ近年のAIは流暢性が高くなってきているため、誤訳を発見しにくくなっています。実際、自然言語処理を研究されている大学の先生に翻訳文を見ていただいた際も、最初は誤訳に気付かれませんでした。その後、原文との違いをご説明すると、誤りをご理解いただけましたが、それほど自然な文章の中に誤訳が存在することがあります。

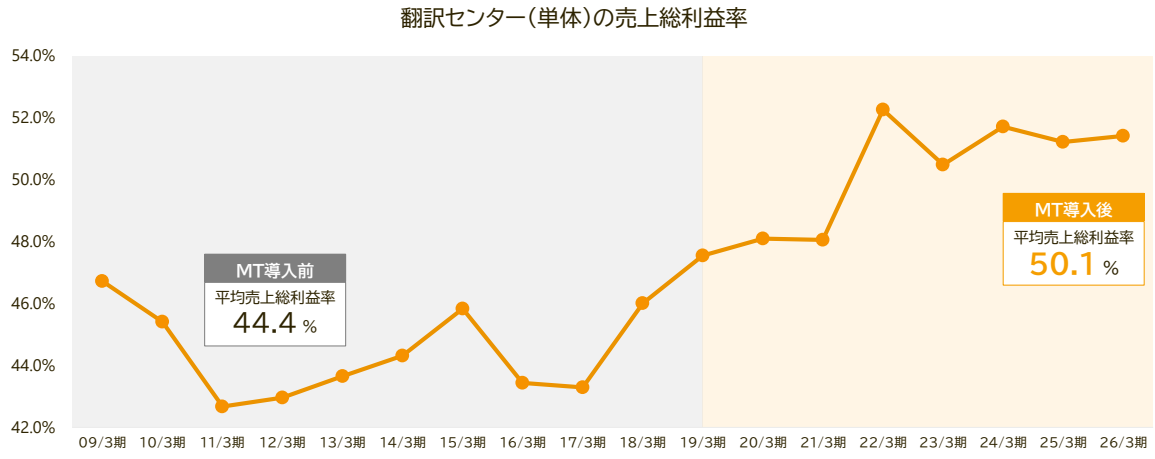
このように、AIは優秀ですが、誤訳がゼロになることはありません。そのため、人による確認工程が不可欠です。 また、翻訳業務では機械翻訳だけでは十分ではありません。前のスライドにも「用語管理」とありますが、実際には過去の翻訳資産の活用が非常に重要です。例えばマニュアルや決算短信は毎回ゼロから作成されるものではなく、過去の表現との整合性が求められます。しかし、AIだけに翻訳を任せると、以前とは異なる表現を生成してしまうことがあります。そのため当社では、過去の翻訳資産を「翻訳メモリ」として管理し、翻訳支援ツール上で機械翻訳の結果とあわせて参照できるようにしています。翻訳者はそれらを比較しながら最適な表現を選択し、翻訳文を完成させています。

また、用語の統一も重要です。AIは同じ意味の言葉を違う表現に置き換えがちですが、こういった用語のブレは、品質上の問題につながります。そのため、用語管理機能や翻訳メモリを活用し、人によるCATを使ったチェックも行っています。

このように、当社では、翻訳支援ツールを活用しながら翻訳者に作業していただいています。機械翻訳といっても、皆さんが思い浮かべるイメージとは異なる、専門的な環境で運用している点をご理解いただければと思います。

テクノロジーの積極活用

機械翻訳(MT)を下訳として活用することで、翻訳センター(単体)の売上総利益率が向上



Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

こうした機械翻訳活用の最大の効果は、生産性向上です。

当社実績では、翻訳生産性はおおむね1.5倍程度向上しています。お客様の中には「3倍くらい効率化できるのではないか」とお考えの方もいらっしゃいますが、実際には誤りの確認や修正作業が必要なため、そこまで大きな改善にはなっていません。とはいえ、着実な成果は出ており、現在もさらなる改善に取り組んでいます。

生産性向上によって翻訳者の作業効率が高まり、結果として原価改善につながっています。翻訳者の方々には、生産性向上によるメリットを踏まえて単価調整にご協力いただく一方、当社は翻訳環境やシステムを提供することで、双方にとってメリットのある形を実現しています。

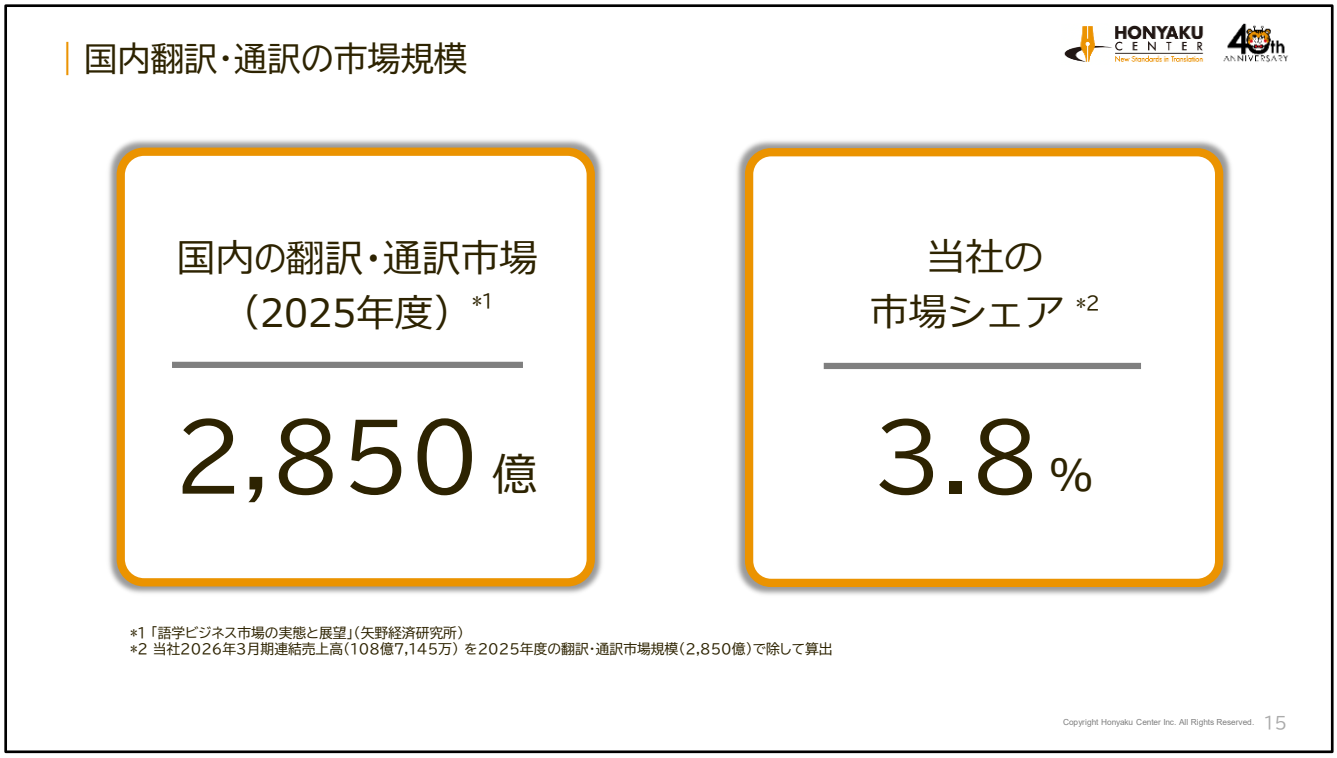
その結果、当社の粗利率は2017年3月期以降、着実に向上してきました。足元では改善ペースは緩やかになっていますが、機械翻訳の進化も続いており、さらなる向上余地があると考えています。加えて、翻訳工程だけでなく社内業務の効率化も進めていきたいと考えています。

Section 2

- 会社概要
- 成長戦略
- 株主還元
- Appendix

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

続いて当社の成長戦略について、中期経営計画を中心にご説明します。



国内の翻訳・通訳市場規模は約2,800億円と推計されています。
この市場規模を前提にすると、当社シェアはまだ4%に達していません。

そのため、国内市場には依然として大きな成長余地があると考えており、海外展開よりも国内シェアの拡大を重視しています。

第6次中期経営計画 概要

■ 基本方針

New Standards in Translation

翻訳センターグループは、専門分野に精通した翻訳者・通訳者と日々蓄積される豊富な言語資産の活用を通じて、デジタル時代に対応した言語サービスを提供することで、顧客から最も信頼される言語サービスのパートナーになることを目指します。

■ 重点施策

- AI・データの活用による事業競争力の強化
- 業務効率化の推進
- 安定した収益基盤の確立

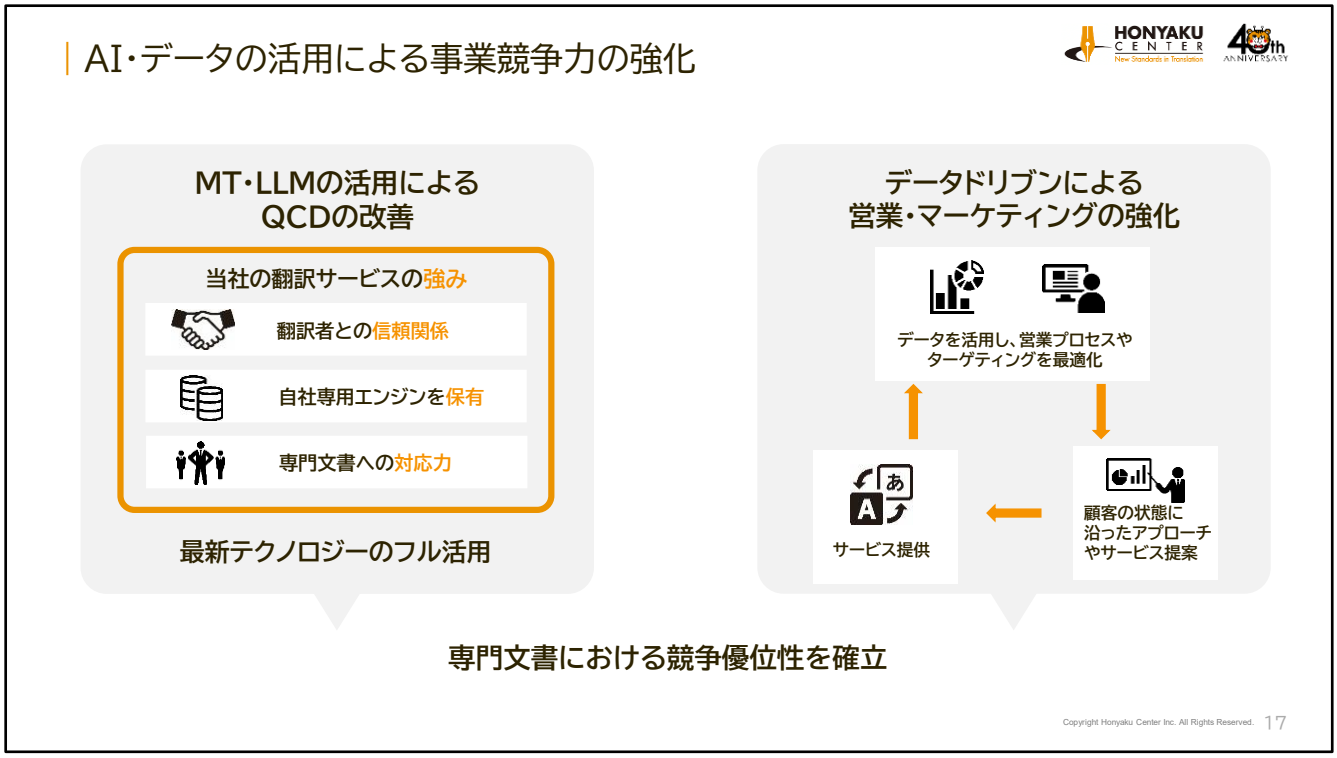
■ 連結業績目標（2028年3月期計画） *

売上高	営業利益	当期純利益	ROE
117 億円	9 億円	6 億円	8 %以上

*「中期経営計画における連結業績目標の修正に関するお知らせ」（2026年5月12日発表）の数値を反映

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

現在、第6次中期経営計画を推進しています。
重点施策は、AI・データ活用による競争力強化、業務効率化の推進、安定した収益基盤の確立の3点です。
2028年3月期には売上高117億円、営業利益9億円の達成を目指しています。



中期経営計画における重点施策のうち、AIとデータ活用についてご説明します。

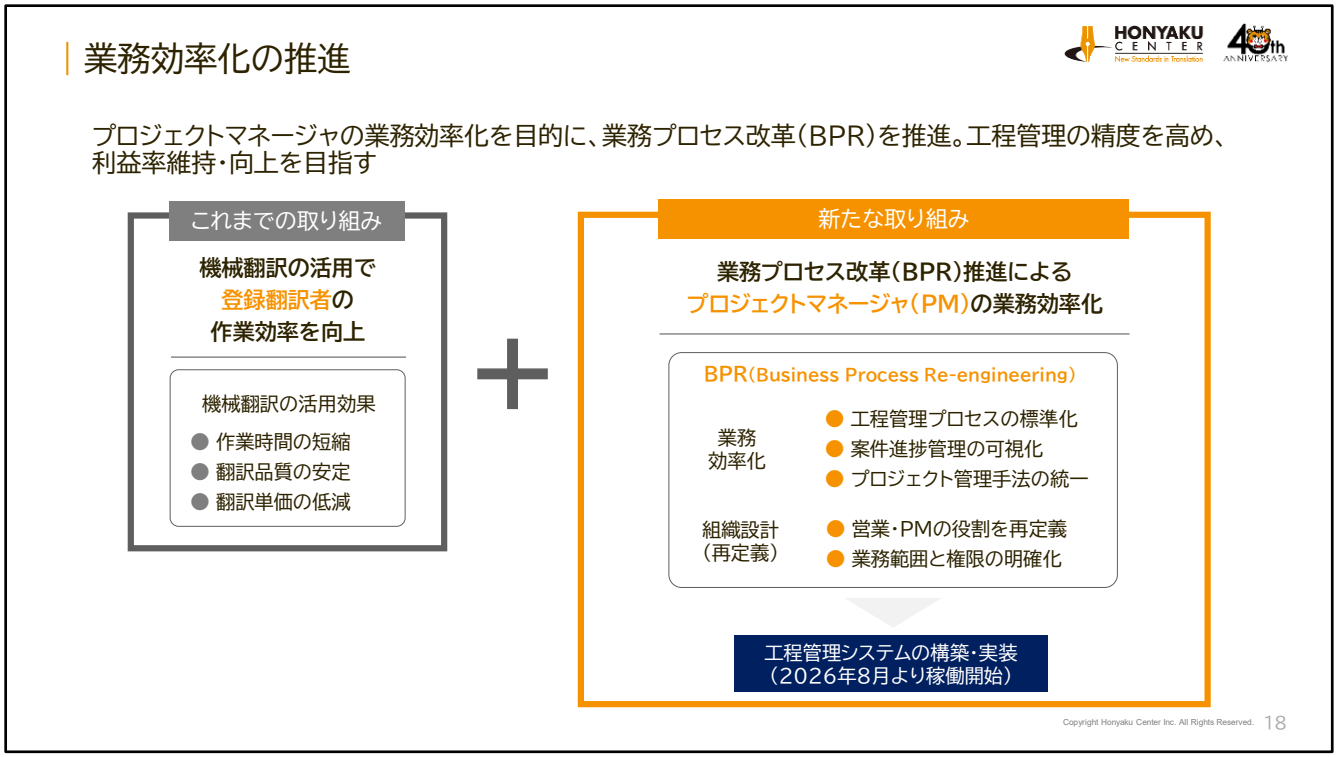
当社の強みは、大きく三つあります。
第一に、長年にわたり築いてきた翻訳者との信頼関係です。どれだけ機械化や自動化が進んだとしても、最終的には人による確認や判断が不可欠であり、優秀な翻訳者ネットワークは当社の重要な経営資源であると考えています。

第二に、自社専用の機械翻訳エンジンを保有していることです。これは豊富な翻訳データと一定規模以上の事業基盤があってこそ実現できるものであり、他社が容易に模倣できるものではありません。

第三に、専門文書への対応力です。現在も翻訳メモリなどの翻訳資産を活用していますが、今後はさらに大きな可能性があると考えています。

近年、AIやLLM(大規模言語モデル)、GPTの活用が進む中で、多くの企業が自社内に蓄積されたデータを有効活用したいと考えています。しかし実際には、部門ごとにデータが分散し、用語や表現も統一されていないため、簡単には活用できないという課題があります。その点、当社が取り扱う翻訳対象文書は、一定のルールや品質基準のもとで整理・構造化されています。こうしたデータは、将来的に翻訳以外の用途にも活用できる可能性があると考えています。

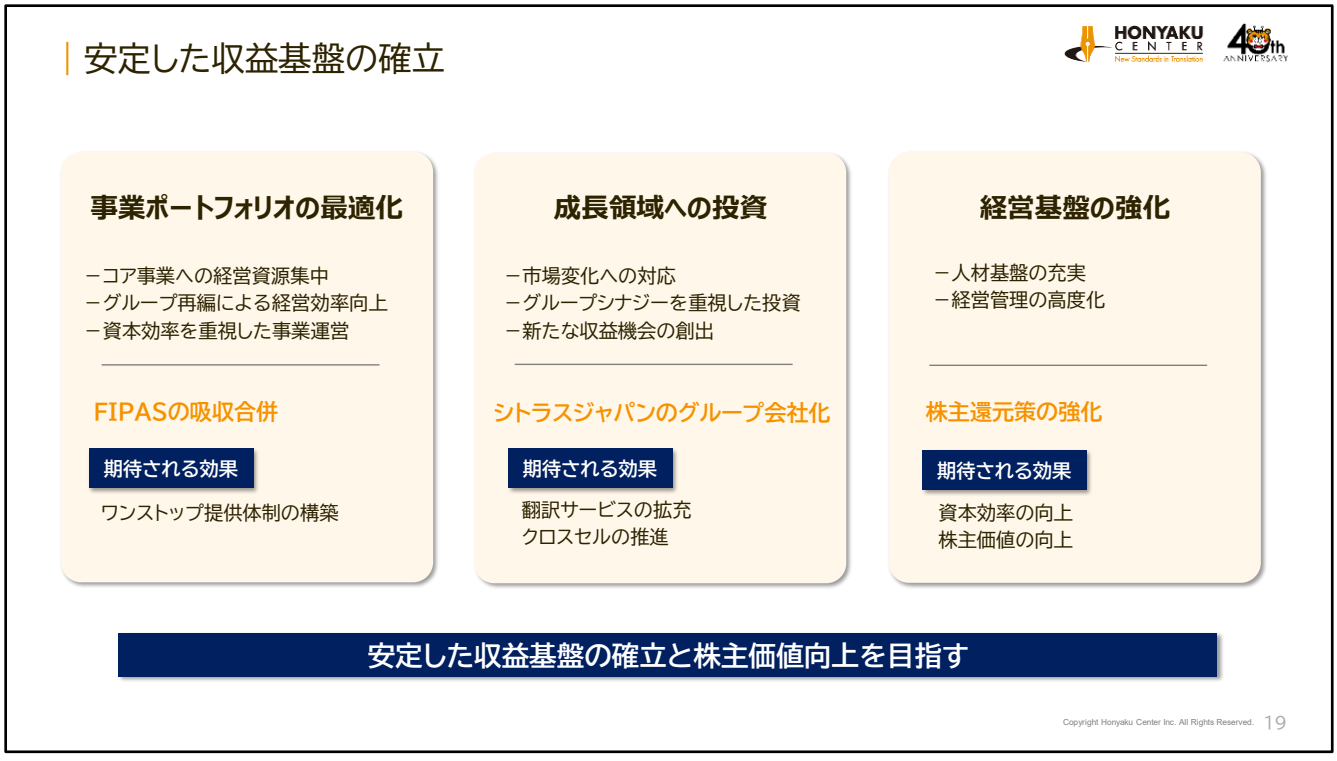
また、営業・マーケティング分野においてもデータ活用を進めています。年間3,000社を超えるお客様との取引実績を生かし、データに基づいた効果的な営業活動や顧客フォローを実現していきたいと考えています。



続いて、業務効率化の推進についてご説明します。

青色で示している部分は、これまでご説明してきた機械翻訳を活用した翻訳工程の効率化です。

これに加えて、現在はBPR（業務改革）にも取り組んでいます。社内には、翻訳者の選定や手配、品質保証（QA）など、多くの業務工程があります。こうした工程を見直し、自動化できる部分は自動化し、システムを活用できる部分は機械化することで、さらなる効率向上を目指しています。



続いて、安定した収益基盤の確立についてご説明します。

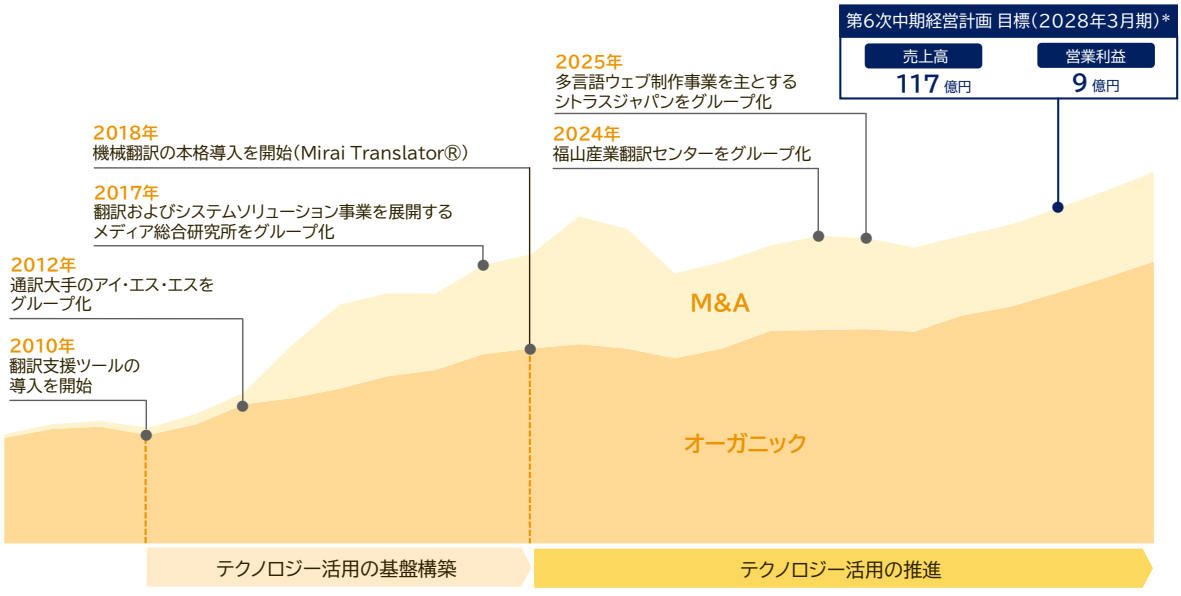
事業ポートフォリオの最適化という観点では、外国出願支援事業を展開していたFIPASを本社に吸収統合しました。

また、成長領域への投資として、多言語ウェブ制作に強みを持つシトラスジャパンをグループ化しています。

当社は単に翻訳サービスを提供するだけではなく、その前工程や後工程も含めてサービスを提供していくことで、先ほどご説明したデータ活用等の機会が増えてくるのではないかと思っています。具体的には、製薬やIR、マニュアル制作など、当社が強みを持つ領域を中心に、さらなる付加価値を提供できる可能性があると考えています。

株主還元については、後ほどご説明します。

成長イメージ



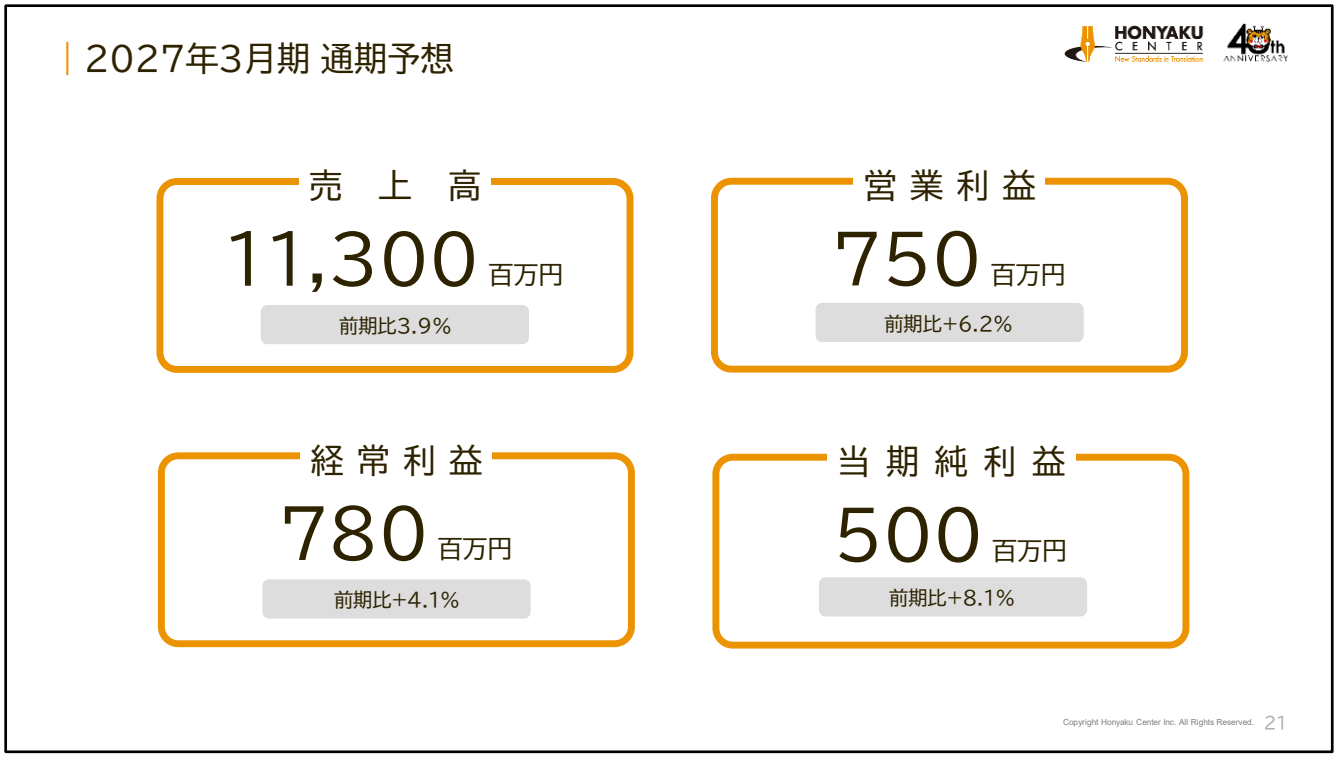
*「中期経営計画における連結業績目標の修正に関するお知らせ」(2026年5月12日発表)の数値を反映

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

成長イメージについてご説明します。

これまで当社は、既存事業の拡大によるオーガニック成長を中心に事業を発展させてきました。一方で、通訳事業や多言語ウェブ制作事業など、新たな事業領域への進出についてはM&Aも積極的に活用してきました。

今後も、既存事業の競争力を高めながらオーガニック成長を目指すとともに、有望な機会があればM&Aも活用し、事業領域の拡大を進めていきます。



2027年3月期の業績予想についてご説明します。

売上高は113億円、営業利益は7億5,000万円、経常利益は7億8,000万円、当期純利益は5億円を計画しています。

Section 3

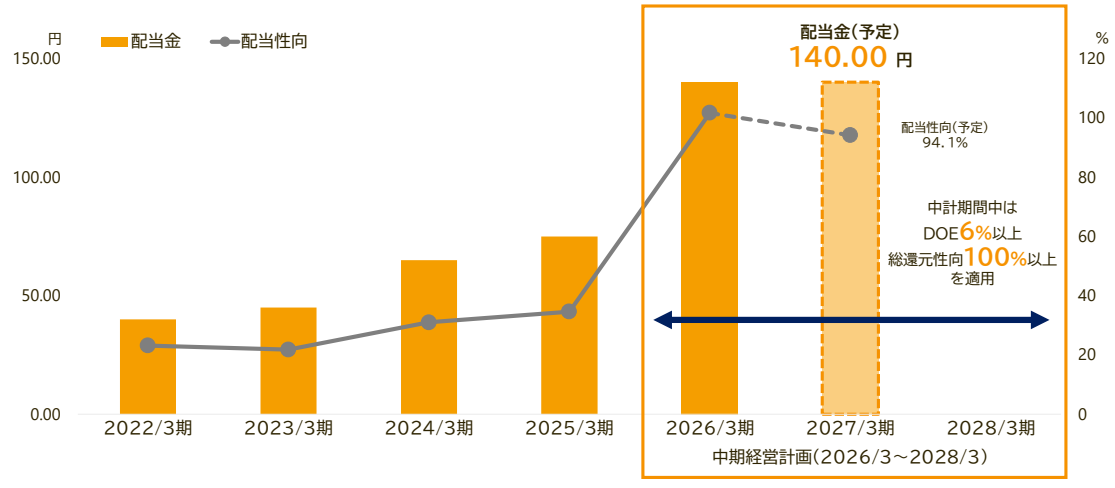
- 会社概要
- 成長戦略
- **株主還元**
- Appendix

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

最後に、株主還元についてご説明します。

株主還元

利益還元の一層の充実と資本効率向上を目的に、中期経営計画期間を対象として、株主資本配当率（DOE）6%以上および総還元性向100%以上を株主還元方針に適用*



*「剰余金の配当（増配）及び2027年3月期配当予想並びに株主還元方針の変更に関するお知らせ」（2026年5月12日発表）

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

当社の方針としまして、利益還元の充実と資本効率の向上を目的に、第6次中期経営計画期間を対象として、DOE（株主資本配当率）6%以上および総還元性向100%以上を株主還元方針に適用しています。

この方針に基づき、中期経営計画期間中の年間配当金は1株当たり140円を予定しています。業績や財務状況を踏まえながらも、業績の成果を株主の皆様と共有していくことを基本的な考え方としています。

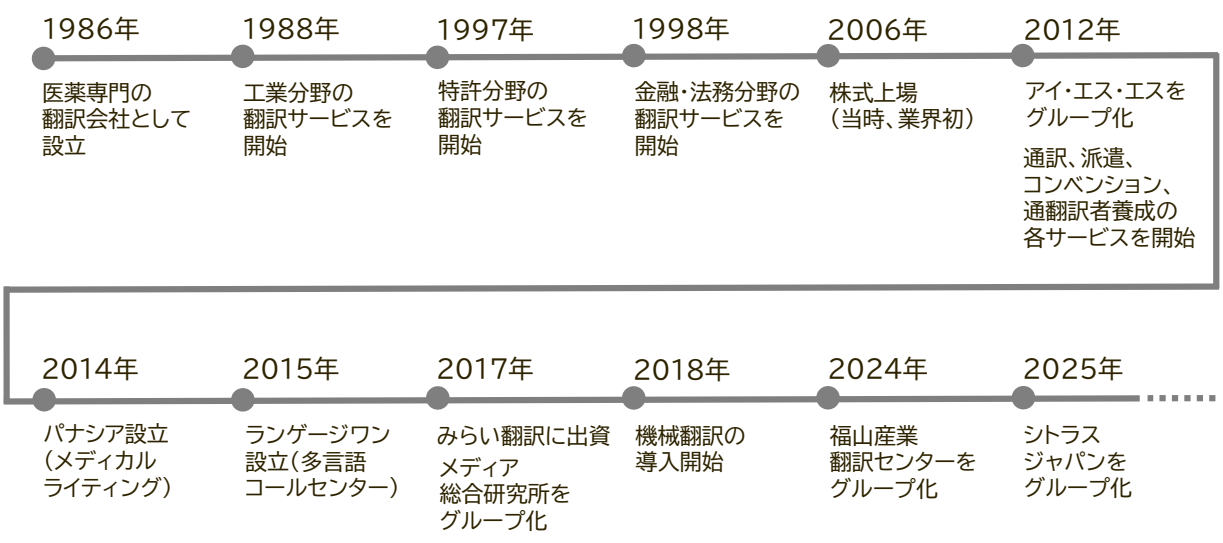
以上でご説明を終了します。
ご清聴ありがとうございました。

Section 4

- 会社概要
- 成長戦略
- 株主還元
- Appendix

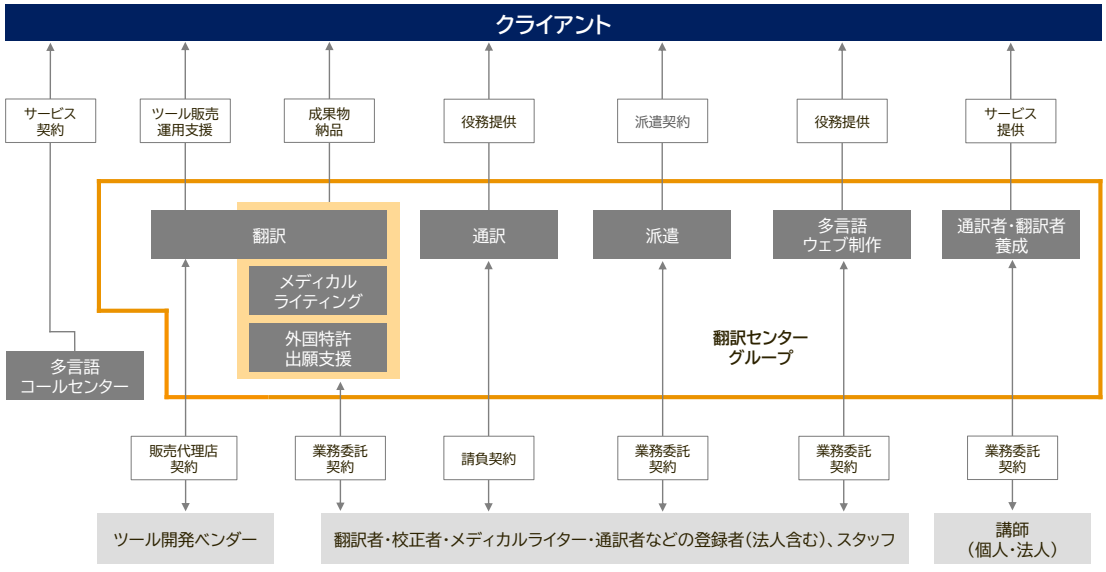
Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

沿革



Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

事業系統図



Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

2027年3月期第1四半期 業績

（百万円）

	2026年3月期 1Q実績	2027年3月期 1Q実績	増減	増減率
売上高	2,669	2,454	△215	△8.0%
翻訳事業	2,009	1,759	△249	△12.4%
特許分野	786	702	△84	△10.6%
医薬分野	622	495	△127	△20.4%
技術分野	350	361	10	3.0%
ビジネス分野	248	199	△48	△19.6%
派遣事業	288	284	△3	△1.3%
通訳事業	294	323	28	9.7%
その他	76	86	9	12.6%
売上原価	1,366	1,281	△84	△6.1%
売上総利益	1,303	1,172	△130	△10.0%
売上総利益率	48.8%	47.7%	△1.1pt	－
販売管理費	1,090	1,110	19	1.8%
営業利益	212	62	△150	△70.8%
経常利益	219	67	△151	△69.3%
特別損失	0	－	△0	－
親会社株主に帰属する四半期純利益	142	36	△105	△74.1%

*当第1四半期連結会計期間より、当社のサービス提供領域をより的確に反映させるため、翻訳事業における分解情報の表示方法を変更しております。これまで集計範囲としていた「工業・ローカライゼーション」「金融・法務」を「技術」「ビジネス」に変更したため、前第1四半期連結累計期間の分解情報を組替えております。
*その他は、語学教育事業、外国特許出願支援事業、ウェブ制作事業等で構成

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

2027年3月期 予想

（百万円）

	2026年3月期 実績	2027年3月期 予想	増減	増減率
売上高	10,871	11,300	428	3.9%
翻訳事業	8,096	8,380	283	3.5%
特許分野	2,945	3,120	174	5.9%
医薬分野	2,677	2,755	77	2.8%
技術分野	1,930	1,950	19	1.0%
ビジネス分野	543	555	11	2.0%
派遣事業	1,123	1,138	14	1.2%
通訳事業	1,323	1,377	53	4.0%
その他	328	405	76	3.5%
売上原価	5,718	5,900	181	3.1%
売上総利益	5,153	5.400	246	4.7%
売上総利益率	47.4%	47.7%	0.3pt	－
販売管理費	4,447	4,650	202	4.5%
営業利益	705	750	44	6.2%
経常利益	748	780	31	4.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	462	500	37	8.1%

*当第1四半期連結会計期間より、当社のサービス提供領域をより的確に反映させるため、翻訳事業における分解情報のうち、「工業・ローカライゼーション」「金融・法務」を「技術」「ビジネス」に変更しております。

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

各種指標推移

（百万円）

	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期
売上高	9,910	10,337	10,947	11,303	11,210	10,871
営業利益	418	811	928	902	890	705
親会社株主に帰属する当期純利益	117	573	686	711	723	462
資本金	588	588	588	588	588	588
発行済株式総数(株)	3,369,000	3,369,000	3,369,000	3,369,000	3,369,000	3,369,000
純資産額	4,524	5,090	5,672	6,250	6,760	7,023
総資産額	6,295	7,172	7,486	8,326	8,836	8,874
自己資本比率(%)	71.8	70.9	75.7	75.0	76.5	80.0
売上高営業利益率(%)	4.2	7.8	8.4	7.9	7.9	6.4
連結従業員数(人)	509	520	521	562	545	540
登録者数(人)*	3,249	2,681	2,815	2,866	2,911	2,945

＊翻訳センター単体

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

連結財務諸表 推移

（百万円）

	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期
売上高	9,910	10,337	10,947	11,303	11,210	10,871
翻訳事業	7,520	7,828	8,457	8,458	8,507	8,096
特許分野	2,100	2,316	2,708	2,902	2,911	2,945
医薬分野	2,875	2,904	2,796	2,605	2,694	2,677
工業・ローカライゼーション分野	2,038	2,028	2,376	2,368	2,280	1,930
金融・法務分野	505	580	575	582	619	543
派遣事業	1,228	1,212	1,119	1,174	1,175	1,123
通訳事業	477	655	854	1,095	1,187	1,323
その他	385	420	365	342	340	328
コンベンション事業	298	220	152	233		
売上原価	5,536	5,429	5,860	5,990	5,895	5,718
売上総利益	4,373	4,907	5,087	5,313	5,314	5,153
売上総利益率	44.1%	47.4%	46.4%	47.0%	47.4%	47.4%
販売管理費	3,955	4,096	4,159	4,410	4,424	4,447
営業利益	418	811	928	902	890	705
経常利益	465	841	960	938	905	748
親会社株主に帰属する当期純利益	117	573	686	711	723	462

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

連結貸借対照表 推移

（百万円）

		2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期
資産の部							
	流動資産	5,515	6,311	6,611	7,289	7,667	7,275
	固定資産	780	861	875	1,036	1,169	1,498
	資産合計	6,295	7,172	7,486	8,326	8,836	8,774
負債の部							
	流動負債	1,595	1,891	1,618	1,853	1,848	1,505
	固定負債	175	190	195	221	227	244
	負債合計	1,770	2,081	1,813	2,075	2,075	1,750
純資産の部							
	株主資本	4,514	5,068	5,630	6,203	6,724	6,947
	その他の包括利益累計額	10	22	42	47	36	76
	純資産合計	4,524	5,090	5,672	6,250	6,760	7,023
負債純資産合計		6,295	7,172	7,486	8,326	8,836	8,774

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

本資料には、当社に関する業績や見通し、将来に関する計画、経営目標などに関する情報が含まれています。
これらは資料作成時点での想定に基づくものであり、これら情報が正確である保証はありません。
また開示規則により求められる場合を除き、本資料に記載の情報は予告なしに変更されることがあります。

お問い合わせ先
株式会社翻訳センター　経営企画室

E-mail
ir@honyakuctr.co.jp

IRサイト
https://www.honyakuctr.com/ir/

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.